

新たな力でトマト産地を活性化



梨北農業協同組合で行われた担い手支援会議

中北地域普及センターでは、県内有数の夏秋トマト産地の維持活性化のため、JA梨北高根支店と連携し、担い手の確保に向けた研修受け入れ体制の構築と、就農後の経営安定化方策の検討を進めています。平成23年度以降に受け入れていた研修生4名が当地域に就農し、本年度も新たに2名が研修を開始しています。

また、昨年度、研修生の受け入れや、就農に関する様々な課題について検討するため「担い手支援会議」を設置しました。

会議では、就農後の課題として農閑期における所得確保が挙げられ、経営品目を検討したところ、ふかし栽培によるアスパラガスとウドが有望であることを確認し、就農者への導入を進めていくことにしました。

今後も、担い手支援会議を核として、産地を支える新たな担い手づくりに取り組み、夏秋トマト産地の活性化を図ります。



農閑期の所得確保を目指したアスパラガスのふかし栽培

笛吹市の援農者育成に向けた取り組み

峡東地域の果樹産地では、高齢化や兼業化などで労働力が不足している中で、個々の経営や産地を維持していくためには農繁期に質の高い労力を安定して確保する事が重要です。

このため、笛吹市では、果樹農家の労力要請に対応できる人材育成や援農体勢の整備に積極的に取り組んでおり、その一つとして笛吹市援農支援センターとJAふえふき営農支援センターが中心となった援農者向けの果樹栽培技術講習会を開催しています。

講習会では、普及センターやJAの関係者が講師となり、モモ、ブドウ等の主な管理技術について実習を交えて指導する他、昨年から指導農業士による剪定指導も行われ、援農希望者や新規就農者の実践的な技術習得の場となっています。

これからも普及センターでは、市やJA等関係機関と連携し、地域に適した援農システムの検討や担い手育成に向けた取組を推進していきます。



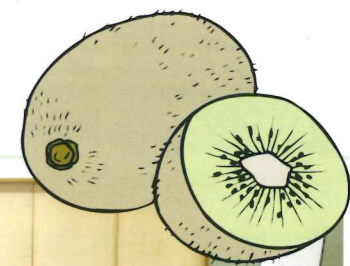
JA関係職員、普及センター職員による桃の摘果技術の実演



援農希望者・新規就農者を対象にぶどうの新摘管理や房づくりの実演



「次代の担い手への果樹基礎学習会を開催しています」



今年度、峡南地域普及センターでは、市川三郷町、JA西八代と協力し、地域の特産果樹であるキウイフルーツとブドウ（大粒系）の栽培技術の基礎について分かり易く学ぶ学習会を開催しています。

「将来農業を行いたい、平日は勤めているため講習会に出られない」「今は見よう見まねで実家の農業を手伝っているけれども、基礎的な技術をしっかり学びたい」といった意向をもつ、今後農家を継ぐ人たちを対象に、市川三郷町大塚地区で参加者の募集を行ったところ、13名の受講希望者が集まりました。

4月6日に第1回学習会を開催し、5月までにキウイフルーツでは4回、ブドウでは2回学習会を行いました。

参加者からは毎回多くの質問や意見とともに「疑問が解消された」、「興味を持った技術について実家の圃場で試してみたい」などの前向きな感想が挙がっています。

今後も参加者の技術修得につながる充実した学習会を行い、スムーズな就農が図れるよう次代の担い手を支援していきます。現在、お勤めをされていて、基礎的な技術を学びたい方や普段の農作業で疑問等ある方はいつでも当普及センターにご連絡下さい。



多くの質問が出された果樹基礎学習会



キウイフルーツの基礎学習会

高冷地に向くタマネギの作型を検討しています



今年2月は種のタマネギ試験栽培

タマネギ苗の植え付けは通常、秋に行いますが、富士・東部地域は冬期の寒さが厳しいため、土が凍り苗が浮き上がって根が切れ、株が枯死したりその後の生育が思わしくないことがあります。

そこで、富士北麓の野菜生産者でつくる富士山野菜生産者協議会では、総合農業技術センターの試験成果として発表した「春まき夏どり」の作型を試験することにし、富士・東部地域普及センターが支援しています。

昨年、標高別に7地域で試験栽培を行ったところ、標高の高いほ場ほど生育の良いことが分かりました。

今年は、生育良好だった4地域（忍野村、富士河口湖町勝山・河口、富士吉田市）で、地域に合った播種や定植の時期を検討しています。

昨年の試験栽培の結果から、新たに栽培を始める会員も現れています。また、収穫物は地元の学校給食にも使われました。

生育不良の原因となる冬期の寒さに当たらず栽培管理期間も短いため、今後、栽培する会員が更に増えていくことが見込まれます。



春まき夏どりタマネギ収穫検討会（平成24年）